

スカウト・タウン

感話・夜話のヒント集

朝・夕のつどい



第26回仏教章研修会：1998.8.26～28

於：徳山市川端町2-22 徳心寺会館

(本冊子は12NJ宗教部で作成されたものの複製版です)

(空白のページです。)

B - P の こと ば

私が ボーイスカウト活動と ガールスカウト活動を始めたころ、宗教について、私の考えを もっと くわしく話すように求められたことがあります。

それは「宗教は、活動にどのようにかかわってくるのですか」というものでした。

そこで私は次のように答えました。

「宗教は、活動に 外からかかわってくるものではなく、はじめから 活動の中に存在しているのです。そして それは スカウト活動の基盤となっている、根本的な要素なのです」

1926. 7. 2

ボ-イスカウト・ガ-ルスカウト
コミッショナー協議会にて

(空白のページです。)

ジャンボリー宗教部として、初めてのころみで、この小冊子を作ってみました。

各教宗派に呼かけて、「お話」をお願いしたところ。ころよく賛同していただいたところ、お忙しかったためか、原稿をいただけなかったところと、全教宗派がそろわなかったのは心残りです。

編集部の独断で、掲載順は、従来のジャンボリーでの、宗教儀礼の参加スカウトの多かった順を原則といたしました。お許してください。

今回の試みを基に、次にはもっと内容の充実がみられるよう望みます。

少しでも、隊長さんのお役に立てたらと
思いつつ



仏 教

パトロール・システム

スカウティングは、「パトロールシステム」によって、展開されます。パトロール・システムって、深く考えたことがありますか。一人一人の顔が違うように、正確も能力も違います。

その、それぞれに違う能力を、グループの中で最大限に発揮し合い、お互いがお互いをささえ合い、助け合って、パトロールのチーム・ワークを最高に作り上げていくことです。

お経の中に「青色の花には青い光があり、黄色の花には黄色い光があり、赤色の花には赤色の光があり、白色の花には白い光がある」と書かれています。つまり、それぞれがそれぞれのもち味のありったけを発揮して、お互いを照らし合い、他のものをひきたてている世界「相照」の世界こそ「仏の世界」だと述べられています。「仏と国とに誠を尽くす」という、スカウトの「ちかい」を実践してゆく方法こそ「パトロール・システム」だと言えると思います。

私達は、遠い遠い昔から、次々と受け継がれてきた「いのち」を、親を通して恵まれました。又、世界中のたくさんな人やいろいろな物の支えによって、今、生きて、いや「生かされ」ています。お互いにお互いの「いのち」をささえ合って生きているのです。

人のいのちも、物のいのちも大切に、感謝の心を忘れず、その中で自分に出来る事、自分の一番得意とする事をのばし、奉仕してゆくこと、それが21世紀の「地球」というパトロールの中でのスカウトだと思うのです。

正しく合掌しよう

仏教でも、キリスト教でも、そのほかどのような宗教でも、それぞれ合掌とか礼拝という作法があります。

それは、自分自身の姿勢や動作の上で、その形をととのえてさほうにすることによって、自然にその心がととのえられるからであります。

「尊い心が出来たら、自然に頭が下がるでしょう」と言うのも道理ですが、身体と心が一体である私達にとっては、「手をあわせて頭を下げることによって、自然に尊い心がわいてくる」という事もまた事実なのであります。

「掌を合わせると真心が目覚めます」とゆわれます。背筋をまっすぐにして、きちんと合掌すると、心がまっすぐに、み仏さまや神様の方に向かいます。静かに深々と礼拝すると、その心は尊い神仏に対する敬けんな敬いの心に染まってゆくのであります。さらに、聖歌を唱い、聖句を朗読し、たとえば「南無阿彌陀仏」あるいは「南無観世音菩薩」と御仏の名を称えると自然にその心に、御仏様が宿って下さるのであります。

そうして、そのみ仏様に導かれて、私たちは、人間として、スカウトとして、今日の日を、あるいは、その一生涯を生きさせていただくのであります。

さあ、背筋を真っ直にして、正しく合掌いたしましょう。



スカウトは親切である

おきての一つに「親切」があります。親切であるということは、掘り下げて考え、別の言葉に置きかえてみると、「奉仕」ということです。

人にあいさつするとき、優しい言葉で人に接し、優しい和やかな表情「顔」で接すると、相手の人は気持ちの良いものです。言葉や表情の表し方ひとつで、人の心をやわらげることができます。親切の第一歩といえましょう。優しい言葉や優しい心が、目や手足の行動にあらわれて、スカウトの奉仕活動となって、人々にほのかな心のよろこびを覚えさせるものです。親切な言葉と行動が、人を敬い、ひいては仏さまを敬う。合掌・礼拝の姿となっていくものです。

親切ということは、思いやりの心からでてくる行動といえましょう。曹洞宗の開祖、道元禅師は「愛語は、愛心より生じ、愛心は慈心を種子とす愛語よく回転の力あることを学すべし」といっておられます。ここでの愛語とは、優しい言葉ということです。慈心を種子とすとは、慈しみの心、すなわち慈悲深い心をもとにしているという心です。この愛語は人の心の考え方を方向転換させて、喜びと感謝の心に変える働きがあるということを学びなさい。という禅師様の教えでありましょう。



私どもスカウトは、いつでも・どこでも・だれにでも優しい言葉と明るい表情で、人に親切に接したいものです。

スカウトは友情に厚い

満員電車の中に、一人のお婆さんが乗ってきました。すると女子高生がすうっと立って、「どうぞ」と言って席をゆずりました。その様子を見て、お釈迦さまがお説きになった「無財の七施」を思い出しました。

無財の七施とは、財なき者にもなし得る、七種の布施行のことです。一には身施(しんせ)、肉体による奉仕であり、二には心施(しんせ)、他人や他の存在に対する思いやりの心です。三には眼施(げんせ)、やさしいまなざしであり、そこに居るすべての人の心がなごやかになることです。四には和顔悦色施(わけんえつじきせ)、おだやかな笑顔を絶やさないことです。五には言辞施(ごんじせ)、思いやりのこもった暖かい言葉をかけることです。六には床座施(しょうざせ)、自分の席をゆずることです。

七には房舎施(ぼうしゃせ)、わが家を一夜の宿に貸すことです。以下が七施で、さきほどの女子高生の行為は、六の床座施に当たります。

この無財の七施は、日常生活の中で、だれでも出来る行為です。一人一人が心にかけて、一つでも二つでも実行できれば、友情が生まれて来て、家庭も社会もなごやかになり、平和な社会、幸福な人生が訪れるでしょう。

この七施を実践することは、スカウトとしてもっとも大切な奉仕精神をやしない、あつい友情をそだて、人格形成の一助になるのではないかと思うのです。

スカウトは快活である

私がボ - イスカウトを始めたころ、ボ - イスカウトのことを早く知りたいと、懸命にスカウティング・フォア・ボーイズやその他のベーデンパウエルが書かれた本を、むさぼるよおに読んだものですが、この「快活」についてはスカウトは、どんな困難にぶつかっても、口笛をふいて、そのことに立ち向かうのだというベーデン・パウエルのことばが、強烈に私の頭の中にしみこんでいるような気がします。

「スカウトは快活である」との実行は、「快活」だけでは実行できないと思います。「おきて」の根本は「誠実」ですが、そのほかに、「友情」も「礼儀」も「親切」も、いや「おきて」のすべてが実行されて「快活」というスカウトらしさがうまれてくるのだと思います。

どうも近ごろのスカウトたちは「おきて」の実行を忘れているのではないかと思います。号笛の音を聞くことが少なくなったような気がします。以前は、号笛の合図で、機敏に走って集合したような気がします。敬礼も、いつか知らぬまに、やるのが少なくなって、スカウティング全体が快活さを失った感があります。

目立たないようなスカウティングの基本を継続することによって、スカウティングが生き返るのではないのでしょうか。集会に集まったとき、敬礼をして、朝のあいさつをする。他団のスカウトに会ったら敬礼をかわす。それこそスカウトらしい仕草だと思うのですが。

スカウトは勇敢である

昨年正月、日本海で、ロシアのタンカーによる重油流出、汚染とゆう事故が発生し、地元の人々の除去作業ではとても手がたりず、広くボランティアの応援がよびかけられました。又、阪神・淡路大震災の時も、多くのスカウトや指導者が、ボランティアとして救援に駆けつけ奉仕をしました。災害で被害を受けた方々に、救援物資や義援金を贈ることも必要ではありますが、共に汗を流して救援活動をボランティアすることもひつようです。

ボランティアという英語は、篤志家、有志、義勇兵、志願兵などと訳されています。この言葉のものはVOLLOというラテン語で、他から強制されるのではなく、自分の意志で何かを行うといういみです。ですから「自発活動」が前提条件です。強制や利害関係でやむなく行うのはボランティア活動とはいえません。

「おきて」七は、「勇敢」です。辞書を引くと「勇ましく思い切って行うこと」と出ています。奉仕活動するには、自発的な強い意志と、まとまった時間が割けること、活動に耐えうる体力、役に立つ技能を持っていること、それにある程度の金銭が必要です。

いざとなったら、勇ましく、思い切って、自ら申し出て、すぐに行動を起こし、「他の人々を助ける」ボランティアになれるよう、日ごろからスカウト活動で十分訓練をしておくことが望まれます。スカウトは、どんな困難があっても、くじけず、勇敢に乗り越えていってほしいと思います。

まなこひらきて見きわめよ

B-P.は、スカウト活動の中で、大切なことをいくつか言われていますが、その一つに「観察」をあげておられます。ボーイスカウトの連盟歌にも「まなこひらきてき、みきはめよ……。」とありますね。

私達は、ふだん、周りの者を、自分の「好き」「嫌い」という「ものさし」で見ていることが多いようです。ことに友達関係では、そういうことが多いと思います。「あの人は良い人だ」という時とか、どこかで「自分に都合の良い人」という気持ち「悪い人」と思うとき、「自分にとって都合の悪い人」という気持ちが、どこかで働いていることはないでしょうか。

小学校の夏休みにやった「理科」の観察では、私達に、もっともっと広い眼で、もっともっと素直な思いで「もの」を見てごらんと教えてくれました。広い眼に、素直な思いになれたとき、「あ、こんなものもあった。こんな面もあるんだ。」と知らされ、知らされることによって、身近に感じられ、親しみも増してくるのです。

仏様は「諦め（あきらめ）」つまり、「明らかな眼」で物事を見なさいとおしえて下さいます。「まなこひらきて、みきはめ……」たとき、まわりの人達の、今まで気づかなかった面も知ることが出来、「だれだって良く知れば、必ず良いところがあるんだ」とわかり、もっともっとお互い手を握り合えるのではないのでしょうか。



神 道

一日のはじまり

一日の始まりは、朝日が東の空に昇る時であります。太古から「朝日の昇る時を大切に」と言われてきましたが、何故尊いのでしょうか。太陽が東の空にパッと顔をだした時が大切なのであって、祝うときなのです。

「素晴らしい朝を迎えまして」とか「すがすがしい朝ですね」とか、色々と表現されております。この『朝』を少し考えてみましょう。

漢字の朝を、筆順を変えて書きますと、「十月十日(とつきとうか)」となり、十月十日(とつきとうか)とは、子供の若々しい命の誕生の日なのであります。

人それぞれ異なった誕生日を持っておりませんが、一人として自分の誕生日を祝わない人はおりませんし、家族の一員として、父・母・夫・妻・子供の誕生日を忘れることはあっても家族の誕生日を祝わない人はないと思います。誕生日を祝うということは、新しい命の出生のときを祝う事につながります。

このように朝日の昇る時をいわうのは、一日一日の新しい命の出生を祝う時であり、最も大切にしなければならない「時」なのではないでしょうか。日々の繰り返される命の「再生(よみがえり)」を祝い、朝日の昇る時を大切に過ごしましょう。



ワラシベ一本

「ワラシベ一本」現代生活には、なじみの薄くなった言葉ですが、私達の先人の生活を省みれば、ワラシベ一本もムダにする事なく、あらゆる湯面に活用されていた、日本人の文化であった。

日本の歴史をさかのぼると水稻耕作にたどりつき、たとえ、水稻生産時の副産物であっても、衣・食・住のすべてに積極的に取り入れ、日常生活に欠かすことの出来ない「一本」であり「日本人の生活文化」であった。

「藁(わら)」という漢字を眺めてみますと、価値ある樹木よりも、より高い価値を認められた華」と読む事が出来、たかがワラシベ一本と言えども、おろそかにする事の無いよう心すべきであり、その一本に内包された価値を見直す必要を感じます。

ここでは、ワラシベ一本を取り上げましたが、我々日常生活を続ける上で、生活に関わるすべての物を対象に、その物の価値観を知り、その物の犠牲の基に日常生活をおくれる事の尊さを再認識すると同時に、感謝の念を抱いて生活する事が肝要と考えます。



キリスト教

一粒の麦は地に落ちて死ななければ

一粒のままである

だが死ねば多くの実を結ぶ (ヨハネ 12:24)

仙波さんは、YMCA (キリスト教青年会) でタイプライターを教えていました。このYMCAに高校を出たばかりの敏子さんという女の子がタイプライターを学ぶためにやって来ました。

仙波さんは、タイプライターを教えると共に、自分が通っている教会に、YMCAに集って、いろいろなグループ活動をしている青年たちを、次ぎ次ぎと連れて来ました。それらの青年たちも、敏子さんも、この教会の中で、いろいろな奉仕活動をいたしました。

ハンセン氏病の人々を助けるため、毎年、街頭募金をしたこともありました。

ところが、60歳ぐらいになった時、仙波さんはガンにかかり、次第に体がやせて行き、とうとう亡くなりました。

仙波さんに導かれて教会に来た仲間達は、仙波さんが亡くなった後、僕達も、私達も、仙波さんのように色々な人達をお助けしよう……と話し合い、次ぎ次ぎと、大事な働きを展開しています。

大地は滅びるがわたしの言葉は決して滅びない

(ルカ 21:33)

仁(ひとし)君は、お家の中でも、学校でも、自分が認めてもらえないため、毎日毎日、あまり楽しくありませんでした。

その小学校に、美智子さんという女の子がいました。美智子

さんは、近くにある教会の日曜学校に出席していました。

ある日、美智子が仁君に「いっぺん、教会の日曜学校に来てみない？」と誘ってくれました。オレ、キリスト教の事は何も知らんけど、行っても良いか」と仁君は聞きました。美智子さんは「何も知らなくても、だんだんわかってくるから、いらっしやい」と言ってくれました。

仁君は、美智子さんに誘われたのが動機となって、教会の日曜学校に出かけました。その日曜学校には、仁君が心から相談出来る良い先生がいました。この先生から、イエス様のお言葉を少しずつ勉強していきました。

今、24歳になった仁君は、日曜学校の先生となって、子供達にイエス様のお言葉を教えています。

信じます。信仰のないわたしをお助け下さい

(マルコ 9:24)

せいちゃんのお父さんは、学校の先生でした。高校生の人達に国語や体育を教えているのです。しかしまだ、神さまを信じる気持ちになれなかったのです。ところが、せいちゃんのお母さんは幼稚園の先生をしたことのある人でした。それで、神さまによくお祈りをしていました。

ある時、せいちゃんのお父さんが、自動車のドアを開いた時どうしたことでしょう、ドアの近くに座っていたせいちゃんが地面にころげ落ちました。

頭を強く打ったせいちゃんは顔が青くなつて、死にそうになりました。お父さんはびっくりして、せいちゃんを抱きかかえ近くの病院に走って行きました。せいちゃんのお母さんも、とてもびっくりしました。お父さんと一緒に走りながら「せいち

やん、大丈夫よ。神様がせいちゃんを守つて下さるように、ママはーしょうけんめいお祈りをしていますよ」と言いました。

病院で診察してもらった結果、少し傷がついただけで、せいちゃんは大丈夫でした。

あなた方の中で偉くなりたい者は

皆に仕える者になりなさい (マタイ 20:26)

奥村さんは、世界の各地から日本に来て勉強していた留学生達の住んでいた留学生会館の館長さんでした。

奥村さんは、とてもやさしい人でしたから、いろいろな国の留学生達が、次々と相談にやってきました。英語が上手な奥村さんは、まだ日本語が余り上手でないアジアの留学生達には、英語でよくわかるように説明をしてあげました。

ある時、便所が汚いという苦情が留学生達から出ました。

奥村さんは、作業着にすぐ着換えて、便所掃除をはじめました。掃除をするおばさんがいたのですけれど、自分でも掃除を試みようとして、奥村さんは考えたのでした。

その姿を見たインドの留学生はびっくりしました。そして、奥村さんに言いました。ミスター・オクムラ、インドでは、館長さんが掃除をすることはめったにありません。掃除をするカースト(階層)の人だけが掃除をするのです」と。

奥村さんは言いました「イエス様は、弟子達の足を洗われました。だから私も、喜んで便所の掃除をさせてもらっています」

(以上、プロテスタント教会)

皇帝のものは皇帝に神のものは神に返しなさい

(ルカ 20:25)

イエスの時代、ユダヤはローマ帝国の属国となっていて、ローマに税金を納める義務があり、そのためにはローマ貨幣を使わねばなりませんでした。しかし、ユダヤ人達はモーゼの律法を大切にし、唯一の神を礼拝する信仰を守っていたので、偶像崇拜は禁じられていました。ところが、ローマ帝国では偶像崇拜が当たり前でしたし、ローマ皇帝を拝むことも要求されていました。ローマの貨幣には皇帝の像が刻まれていたので、ユダヤ人はそれを使うことも嫌いましたが、納税のためには使わざるを得ませんでした。

それで、表向きは、ローマに税金を納めながら、かげでは、ローマの悪口を言い、いつかローマから独立したいと望み、中でも過激派の連中は一揆を起こす計画を立て、時には実際に反乱を起こすこともありました。

そうした中で、イエスの反対者達は、イエスに質問をしかけました。ローマに税金を納めるのは許されるか、それとも許され、ないかと。

イエスがもし、「納めるべきだ」と言えば「あなたはモーゼの律法を軽んじるのか」と突込むつもりだし、逆に「納めることは許されない」とイエスが答えれば、「あなたはローマに盾つく気か」と突込む。どちらを答えても困ったことになるので、だれも正式に答えることは出来ないでいる意地悪な質問をイエスに向けたわけです。

イエスは彼等の悪だくみを見抜いて「あなたの持っている貨幣にはだれの像が刻んであるか」と逆に質問しました。

彼等は自分のポケットから金を出し「ローマ皇帝の像です」

と仕方なく答えました。イエスはすかさず「皇帝のものは皇帝に納税するために使えばいいでしょう。そして、神のものを神に返す事を忘れないように」と言いました。つまり、神様に果すべきつとめは、税金をどうするかという事よりもっと大切な事です。神と隣人を愛する事に、もっと力を入れなさいということ強くすすめた言葉です。

真理はあなた達を自由にする

(ヨハネ 8:32)

真理とは、まことのこと、事実をありのままに認める事です。存在するものは全て真理であるという言い方もあります。

「ここに花が咲いている」という簡単に認められる真理もあれば、原子物理学を長年勉強して、やっと理解出来る真理もありますが、とにかく事実をありのままに認めて、それに従って生きるならば、心の中は平静で、何の心配もなく、その場にふさわしい生き方が出来るでしょう。

「お酒の奴隷」という言い方があります。つまり、お酒が切れると苦しくなり、気狂いのようにお酒を求め、なりふりかまわず飲む人は、もうお酒にふりまわされているので、自由ではないわけです。これは人間の尊厳を失った生き方、つまり、真理に反する生き方をしているから、自由でなくなるのだと言えます。

最高の真理、最も重要な真理は、神の存在と、その神の子、イエス・キリストの教えを信する事だと教えられています。



あなた方も用意していなさい (マタイ 24:44)

人の手は思いがけない時に来るからである

これは、スカウトのモットー「そなえよつねに」のもとになった聖句です。

このお言葉は、主キリストが、この世界の終末を迎える時の我々の心構えを教えられたものです。いつかは、必ず、人間の世界に、突如として終りが来て、その時全人類が、神の審判を受けるが、その時は予め知ることは出来ないので、いつ終りが来てもよいように、常に準備が出来ているようにしていなさいということです。

そうした心構えを、ふだんから養うように、スカウトの訓練でも、いつ、どんな事態が起っても対応出来るようにしておきなさいというわけで技能章も身につけているし、キャンプから帰ったら、汚れたり破れたりしているテントは、出来るだけ早く洗って修理してから倉庫にしまうように心掛けるのも「そなえよ、つねに」の実践をしながら、もっと大切な事への、「用意する心」を養っているのです。



(以上、カトリック教会)



名人の手にふれて

マイラ、フッレックス、ウエルチ

これは傷ついた古いバイオリン。

競売人が値もつけられず、せりに出すのさえ恥ずかしいような古びたバイオリン。それでも笑ってさし上げる。

「さあ、皆さん。値をはって値をはって！」

「どなたでも 値をつけていただきますよう。」

「1ドル、1ドル。」それじゃ「2ドル」「たった2ドル?」「さあ2ドルができましたよ。どなたか3ドルにする人はいませんか。」「3ドルは?」と一声。 続いてもう一度「3ドルは?」

「では3ドルの……」「いや、待て！」

部屋の後ろから、白髪の男が出て来て、弓を取る。

古びたバイオリンのほこりを落とし、緩んだ糸を締め直す。

そして 美しく 甘い調べを奏でる。まるで天使のさえずりのように。

音楽が終る。再び競売人が静かな低い声で言う。

「さあ、この古いバイオリンにもう一度値を付けて頂きましょう。」弓も一緒に上げる。

「千ドルだ!」「さあもう一声。」「2千ドルだ!」「さあ3千はいませんか」「3千はいませんか」と一声「3千は?」もう一度。「いませんね。決った!」人々のかさいが起こる。しかし泣く者もいる。

「どうしてあんなに値打ちが変わるのだろうか。」

すると即座に答えが返ってくる。「名人の手に触れて」

世の中には人生の歯車が狂っている人も多くいる。

罪に痛みつけられ、傷ついている者もいる。

安っぽい群衆にたたき売られる。

まったくあの古びたバイオリンのように。

「一わんのあつもの」あるいは一杯の酒、かけごと - -
そしてまた旅に出る。

一度「落ち」二度「落ち」三度「落ち」「落ちてしまいそう」
になる。

そこに名人が現われる。

しかし、愚かな群衆たちにはわからない……………心の尊さ。
名人の手に触れ、鍛え抜かれた変化の様。



セミナーー 旧約コース
(末日聖徒イエスキリスト教会)

自然を造られた神様

皆さんの中には、花を植えたり野菜を植えて、育てている人もいるでしょう。種や苗を植えて、水や肥料をあげると、どんどん大きくなって、季節になるときれいな花が咲いたり、おいしい野菜ができると本当にうれしいものです。

土をいじったり、雑草を取ったり、虫をとってやらないといけないこともあります。そういう世話をしてあげると、実は、人の心も落ちついてくるそうです。

アメリカでは、こういう野菜作りが今大変人気のある趣味になっています。そればかりでなく、たくさんな学校に畑がありそこで野菜を作り、それで昼食も作るそうです。

それまでは、けんかばかりしていた学校が、みんなで畑をするようになったら、落書きも消えて、窓ガラスも割れなくなっていったそうです。

聖書では、神さまが世界を作られ、私たち人も造られたとあります。そして、そのとき神さまは特別に、野菜やお米や果物

を私たちの食べ物として与えて下さいました。

そして、そのために神さまが雨を降らせて、人が土を耕して一緒に育てていくようにされたのです。それがエデンの園という、神さまと一緒にいたときの、仕事でした。それは、とっても楽しいものだったのです。

いのちのあるものに触れていると、それを与えて下さっている神さまに、心が向いていきます。そして、それが、心を元気にするのです。

「12N」に参加して、いつもは機械に囲まれて、がさがさしている心が、友達と一緒に、自然を造られた神さまを感じてますます元気になるでしょう。

「空の鳥を見なさい、野の花を見なさい。」とイエス様がおっしゃったことを思い出して、ここでも過ごしましょう。

(西大寺キリスト教会)



金光教

天が下の者はみな
天地の神様の氏子である
天が下に他人はない

金光教では、人間を「神の氏子」と見ています。神のいとし子といった意味です。神の氏子という語は、三つの中身をもっています。一つは、神様が愛し慈しんでいる子という中身。二つには、神様の分けみたまを受けている子という中身。三つ目には、神様の働きを身に現す可能性と、現していく責任とを持つという中身です。そうした中身をもった神のいとし子であるから、神様の恩恵を受けると共に、他のあらゆる者、他の一切のものに対して、そうとしての生き方をしなくてはなりません。

人間は、そうした存在として把握されているのです。ですから、そうした神様と人間との関係の上に立って、人間相互の関係をとらえるとき、人間は皆兄弟であり、天が下に他人はないということです。

わが子でも、わが子でありつつ、根本的には神の子であり、そうとしての接し方が必要となってきます。わが夫、わが妻もあるいは見も知らぬ人も同じことです。そのような存在と認め合うことが大切である、ということなのです。



痛いのが治ったことだけがありがたいのではない

いつも健康であることが、ありがたいのである

医学上不治といわれる病が、奇跡的に治ったということが、宗教にはあります。そうなったら、本人もどれほどうれしい事でしょう。また、そのような奇跡に導いた側の宗教が、鬼の首でも取ったように思うのも無理はありません。しかし、金光教の教祖様は、治ったそのことより、平常私達が健康であることの中にこそ、もっとありがたい、神様の働きがあるのだと説いています。

私達人間は、病気が治った時にだけ神様の恩恵を受けているわけではありません。何事もない時、健康な時にも、たえず神様の恩恵を受けているのです。ただその事に気づかないだけなのです。

人間が生きているということは、たえず神様と共にあるということであり、一刻も神様のお守りから離れては生きていけません。

だからこそ、人間が生きているという事と、神様に生かされているという事とは、ほとんど同義と言えます。それを、金光教では「生かされて生きる」と言います。

病気が治った事だけに注目するのではなく、そのことを通して、神様と人間との「生かされて生きる」関係を見据えていくことが、人間の救いにとって大切なことなのです。

(以上、金光教)



世界救世教

神と国とに誠を尽くしおきてを守ります

「世界救世教々義」の論文に「世界の創造主たる主の大神はこの地上に天国を樹立すべく太初より経綸を行なわせ給いつつあることを吾等は信ずるのである」とあります。この教えに基づいて「神に誠を尽くす」ということは、明主様の望まれる人間としてどうあるべきかを常に心に置き、真文明世界実現を目標として、それぞれの使命を果たすよう努力することです。

このような人々が多くなることによって、必然的に「国に誠を尽くす」ことになります。具体的には、基礎経綸の実践により、より深い理解が生まれます。このことについても、明主様は「しかし懐疑そのものだけでは何等意味をなさないが、これによってだれでもこのナゾを解こうとする意欲が起るであろう。それが尊いのである。何となればこれによって真理をつかみ、智識は進み向上されるからである。従って懐疑の起る人ほど進歩的で、将来性ある人と言わねばならない」と説かれ、実践することでより深く明主様が進められる経綸を理解出来、その結果が真文明を創造していく営みにもなります。

まずは、個の取り組みから始め、その取り組みから家族、地域に誠を尽くすことにつながります。そのためにスカウトは、自分自身にも誠を尽くし、明主様のご経綸に添うためにも「8のおきて」を受け止め、生活の基盤として、その実行を継続するように努力します。

「世界人たれ」の論文に「本教は全人類を融和され、世界を一家の如くする平和主義である」とあります。日本の国が世界の国々に愛され、信頼されるように誠を尽くす広い心と視野をもたねばなりません。

からだを強くし心をすこやかに徳を養います

明主様は、「人間が現世に生まれるという事は神の命によるのである。(中略)然らば神の意図とは何ぞやといえ、この地上をして理想世界、言換えれば、地上天国を建設する事である。(中略)そうして神は一人一人それぞれの使命を与え、特長を持たせ、生き変わり、理想目的に向って前進せしめつつあるのである。」と説かれており、神様のご意志に応えるように努めるべきです。

社会に役立つにも、まず健康な身体でなければなりません。健康の根本的な考えは「今日一日の生命が与えられた。私は生かされている」という感謝の心を持つことから始まります。心も身体も神様から与えられたものですから、心身共に向上していくことが大切です。

明主様は「一切は霊が主であり体が従であり、霊主体従が万有の法則である。一例を挙げれば、人間が四肢五体を動かすのも、眼に見えざる意志の命によるので、決して五体が勝手に動くのではないと同様である。故に奇跡といえども、本源は霊に起り、体に移写するのであるから、この理を先ず確認するのである。」と説かれており、現界の一切の出来事は、霊界における出来事が移写されたものであります。そのためにも、善徳を積むことによって霊が浄まることもその一つであり、心身共の健康に向っていきます。

他人の幸福を願い、報いを求めないで積み上げる徳が本当の徳であり、明主様の、み心に通じていきます。

(以上 世界救世教)



各教宗派別 礼拝の一例

次のプログラムは、12N J 宗教礼拝のために、各教宗派より、例として示されたものである。

神 道

所属神社の方に向かって整列、黙想

1. 祓 詞はらえことば、二拝、全員で奉唱、二拝、二拍手、一拝
2. 神拝詞しんばいし奉唱、二拝、全員で奉唱、二拝、二拍手、一拝
3. 拝 礼
4. 敬神生活の綱領唱和、一拝
指導者に従って全員で、一節ずつ唱和、一拝
5. 歌
6. 講 話

仏 教（全宗派の合同プログラムの一例）

1. 合 掌、礼 拝
2. 衆会（歌）または、Vandana（パーリー語 きょうらいもん 敬礼文）
3. Ti-sarana（パーリー語 さんきえもん 三帰依文）
4. 聖句朗読（聖典より）「おきて」に関するものを選択するのもよい。
5. おはなし
6. 歌
7. 合 掌、礼 拝

キリスト教（プロテスタント・カトリック）

1. 賛 美 歌
2. 祈 禱（または、主の祈り）
3. 聖書朗読

- 4 . 教 話
- 5 . 祈 禱
- 6 . 賛 美 歌

キリスト教 (聖公会)

- 1 . 全員で黙想
- 2 . 聖書のことば暗唱
- 3 . 主の祈り
- 4 . 祈 り

金 光 教

- 1 . 礼 拝
- 2 . 天地書附奉体
- 3 . (教 話)
- 4 . (歌)
- 5 . 礼 拝

世界救世教

- 1 . ぜんげんさんじそうじょう 善言賛詞奏上
ゆう 一揖、二拝、三拍手、一拝
ぜんげんさんじそうじょう 善言賛詞奏上
ゆう 一拝、三拍手、一拝、一揖
- 2 . 御歌奉唱
- 3 . 御教え拝読
- 4 . 事例報告
- 5 . お 話
- 6 . 浄 霊

スカウト・OWNについて

スカウト・OWNは、聖職者、牧師、司祭、僧侶、神官、教師などが、その場に居合わせない時に、スカウト自信(own)で行う礼拝です。従って、夫々の教宗派に分かれて行うのが適当でしょう。

(「指導者のための宗教ハンドブック」に例示)

しかし、現在、成人指導者の各種集会で行われている「スカウト・OWN」では、時間・場所などの事も考慮して、教宗派に分かれずに、全員で、

- 1.歌
- 2.お話し
- 3.黙想

という方法がとられることもあります。

ここでは、いくらかでも各人の信仰に基づいたスカウト・OWNが実施できるように「黙想」の時に自分自身の信仰に基づいた「祈り」「法話」を、声を出さずに、口の中で唱える方法を例示いたしますので、活用してください。

仏教

さんきえもん
三歸依文

みづか ほとけ きえ しゅじょう
自ら 仏に 歸依したてまつる。 まさに願わくは 衆生と
共に 大道を 体解して 無常意を 発さん。

みづか きえ しゅじょう
自ら 法に 歸依したてまつる。 まさに願わくは 衆生と
共に 深く 経蔵に入りて 智慧海の如くならん。

みづか そう きえ しゅじょう
自ら 僧に 歸依したてまつる。 まさに願わくは 衆生と
と共に 大衆を 統理して 一切無碍ならん。

カトリック

しゅ とう ぶん
主 禱 文

天にまします われらの父よ
ねがわくは み名の尊ばれんことを
み国の来たらんことを
み旨の天に行われるごとく 地にも行われんことを
われらの 日用の糧を 今日 われらに与えたまえ
われらが人に赦すごとく われらの罪を 赦したまえ
われらを 試みに引きたまわされ
われらを 悪より 救いたまえ
アーメン

プロテスタント

主の祈

天にまします 我らの父よ

ねがわくは み名をあげめさせたまえ

み国を来たらせたまえ

み心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの 日用の糧を 今日 我らに与えたまえ

我らに罪をおかすものを 我らがゆるすごとく

我らの罪をも ゆるしたまえ

我らをこころみにあわせず

悪より救い出したまえ

国と力と栄とは 限りなく

なんじのものなればなり

アーメン

神道

はらえ ことば
祓詞

かけまくもかしこき 伊邪邦岐大神 筑紫の日向の

橋 小戸のあわぎ原に 御禊祓え給いし時に生り坐せる

はらえ戸の 大神たち もろもろの禍事 罪けがれ有らむ

をば祓え給い清め給えと白す事を 聞こし食せと

恐み 恐み も白す。

略 祓詞

はらえ ことば
祓え給え 清め給え (3回くりかえす)

金光教

天地書附奉体

生神金光大神 天地金乃神 一心に願。(先唱者)

生神金光大神 天地金乃神 一心に願。(全 員)

おかげで和賀心にあり。(先唱者)

おかげで和賀心にあり。(全 員)

今月今日でたのめい。(先唱者)

今月今日でたのめい。(全 員)

神徳賛詞

仰ぎまつれば天高く(先唱者のある場合は、この一句を唱う)

仰ぎまつれば 天高く 拝みまつれば 地は厚し

神の恵みに生かさるる 身の幸いぞ ありがたき

わが生神の 御取次一日も欠くるときのなく

天地の神の御守り 遠き近きの隔てなし

神慈しみは万代に 遍く満ちて 果てしなく

神量らいは奇しくて 人の思いぞ 及ばざる

われら今月今日 礼びまつりて ひたすらに

神のみかげを 賛えまつらん

神のひれいを 仰ぎまつらん

世界救世教

御 讃 歌

健やかに 人の努めを果たすこそ

神の恵みに 報ゆなりけり

「ぞうさん」の贈り物

(H10.6.1 朝日新聞社説より)

まど・みちおさんに会った。

重謡「ぞうさん」の作詞家で知られる。

ぞうさん ぞうさん
おはなが ながいのね
そうよ
かあさんも ながいのよ

大人も子供も知らない人はいないだろう。象の子供と母親の、仲よしこよしの歌と思っていた。「そうではないのです。象の子が、鼻が長いと、けなされている歌なのです。」

それでも、象の子は、しょげたりしない。むしろ、ほめられたかのように、一番大好きな母さんも長いと、いばって答える。「それは象が、象に生まれた事は、すばらしいと思っているからです。」

象に限らない。ウサギもイワシもスズメも草や木も、地球に住む生き物たちすべてが、自分であることを喜んでいる。人間だって、その中の一員である。これが、まどさんの「ぞうさん」哲学なのだ。

アイデンティティーとか「自分探し」といって、自分の存在証明に躍起になることもない。あるがまま」でいいのだ、と言っているように思われる。

人間も他の生き物も、それぞれに違いがあるからこそ意味がある。

その違いを生かして助け合う事が、最善のみち。みんながみんな、心ゆくまでに存在していい。「共生」の考え方だ。

まどさんは、相手の傷や痛みを、自分で引き受けてしまう。そんな詩を読むと、何か途方もなく大切な事をなおざりにしたままでいることを気づかせてくれる。

八十八歳。戦前、台湾にいた十九歳から童謡や詩を書く。その数は千を超える。いまでも書き続ける。

まどさんは、繰り返し蚊の詩を書く。
刺しにくる蚊。思わずたたいてしまうのだが、刺される側のまどさんは、血を吸わなければ生きていけない蚊の身の上にまで心を痛める。

きえいりそうに よってくる
きんいろの こえを
大げさに たたいたあとになって
ふと おもうことだってある
むかしむかしの
りようかんさんだったらばなあ……と

たたいてしまった自分に傷つき、蚊のことが気にかかってしまうのだ。

子供がしゃべった言葉を詩にした作品展で、まどさんの印象に残ったのは、教室でトイレに行きたいが紙がなく地団太を踏んでいる。それを見た他の子供と一緒に足を踏みならしたというものだった。

童謡「サッチヤン」の作詞家で、まどさんの評伝を書いた阪田寛夫さんは「私達がふだん見過ごしてる小さな、それゆえ大事なことを教えてください。いまでも、新しい発見に向けて、散歩しています。」

ほかのだれでもない自分が、ほかのどこでもない「ここに」いる。そのことこそが、すばらしいのだと「ほくがここに」いう詩でまどさんはうたう。

キャンプありがとう

テントをはり カマドをつくり ごはんを炊き
そして ハイキングにも出かけた ね
楽しかったり つらかったりしたキャンプも あしたで終る

ふだん ごくあたりまえと思っていることが
実は いろんな たくさんな
周りの人たちの「おかげ」があったからなのだ と
知らされたんじゃないですか

一人一人 カオが違うように ひとりひとりココロも違い
ひとりひとり 得意なこともちがいますよ ね
そんな仲間が集まって それぞれ得意なことを出し合って
ひとつに まとまること
それが
スカウトの「パトロール・システム」って言うことなんです よ

そんな 人が ものがあって「私」が支えられている
だから 私も まわりの人たちのために
自分の出来ることをして ささえてあげなくちゃ……
そういう「勉強」をするのが スカウト活動なのです ね

ふだん 家では できないこと
考えることもなく 過ぎてしまうこと

そんな
ごく小さなこと
でも すごく大切なことを 教えてくれた
キャンプ ありがとう！



ひと日の終りに

-- REFLECTION AT BEDTIME --

「おきて」を「ものさし」に、今日の自分をふりかえってみよう。

言葉づかいに、反省するところは、なかったか。
また、言ったことと、実行したことに、ズレはなかったか。

前の日より、一步でも、改善しようと、努力しただろうか。

仲間たちの間で、スカウトらしくない言動が見られたとき、注意してあげる勇気があっただろうか。

時間・もの・お金のムダ使いは、なかっただろうか。

- - おやすみなさい - -



その人

その人の 前に出ると
ゼツタイに うそが言えない
そういう人を 持つといい
 その人の カオを見ていると
 ゼツタイに ごまかしが言えない
 そういう人を 持つといい
その人の 眼を 見ていると
心にもない お世辞や
世間的な お愛想は言えなくなる
そういう人を 持つといい
 その人の 眼には
 どんな 巧みな カラクリも通じない
 その人の 眼に 通じるものは
 ただ ほんとうのことだけ
 そういう人を 持つがいい
その人と いるだけで
身も心も 洗われる
そういう人を 持つがいい
 人間には あまりにも
 ウソや ゴマカシが多いから
 一生に一人は
 ごまかしのきかぬ人を 持つがいい
 一生に 一人がいい
 そういう人を 持つといい

(相田みつお)

覚え書き



Lord Baden-Powell of Gilwell

所属： 団 隊 氏名：